

採材現地検討会の開催について

平成29年7月21日、遠野市附馬牛町東禅寺国有林で、岩手南部森林管理署と岩手南部森林管理署遠野支署合同の採材現地検討会を開催しました。

晴天の中、請負事業体、検知事業者、管内自治体関係者等99名の参加により、スギ、カラマツ、広葉樹の供試木9本を対象に有利な採材方法を検討し、実際に切り確認を行いました。

採材の検討には、それぞれの署の請負事業体代表と森林管理署の監督員等による4班で、材の素性から使用用途、採材（切る）位置にテープで表示してもらいました。

その後、各班から検討結果を発表していただき、東北森林管理局青森事務所、岩手県森林組合連合会それぞれの立場から適切な採材か検討し採材の考え方、指導を受けました。

青森事務所からは、パルプ材以外の一般材、合板材等の2mが連続する場合は、4mに採材することにより、造材回数（切る回数）が減り、搬出、はい積、運搬での積み下ろしなどの時間が短縮できる。また、2m材より4m材は単価も高く、生産コストの削減と販売単価のアップの効果が期待できる。などコストに影響も与えること、県森連からは、広葉樹の貴重な資源を、安易にパルプ材として採材しないこと、広葉樹は、生産から販売までの迅速な対応が必要であり、伐採時期等の対応を事業体、発注者側と連携するよう話がありました。

今回の検討会を受け、事業体と署が連携し、コスト削減と有利採材に向けた取り組みを進める事を意思統一し、今年度の検討会を終了しました。



開会式



岩手県森連共販グループからの説明



スギの採材検討状況



広葉樹の採材検討状況